

しんにほんごの きそ 1 新日语基础教程



財団法人海外技術者研修協会 編著



外语教学与研究出版社

H36

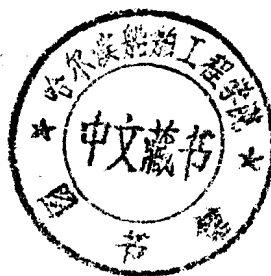
C031

417999

しんにほんごのきそ 1

新日语基础教程 1

财团法人 海外技术者研修协会 编著



17999



外语教学与研究出版社

(京)新登字 155 号

京权图字 01-98-1639

图书在版编目(CIP)数据

新日语基础教程(1)/(日)财团法人海外技术者研修协会编著. - 北京:外语教学与研究出版社, 1998.8

ISBN 7-5600-1484-4

I. 新… II. 财… III. 日语-教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(98)第 20987 号

新日本語の基礎 1 (本冊 漢字かなまじり版)

© 1990 by the Association for Overseas Technical Scholarship (AOTS)

All rights reserved: no part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

First published June 1990

Published by 3A Corporation.

Shoei Bldg., 6-3, Sarugaku-cho 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101, Japan

只限在中华人民共和国境内销售 不供出口

本书封面贴有 AOTS 的防伪标签,无标签者为盗版,不得销售

新日语基础教程 1

财团法人 海外技术者研修协会 编著

* * *

外语教学与研究出版社出版发行

(北京西三环北路 19 号)

北京大学印刷厂印刷

新华书店总店北京发行所经销

开本 787×1092 1/16 16.25 印张

1998 年 9 月第 1 版 1998 年 9 月第 1 次印刷

印数: 1—30000 册

* * *

ISBN 7-5600-1484-4

G·627

定价: 18.90 元

前 言

“听、说、读、写、译”是外语学习中的五个基本环节,要想学好外语,应该把握这五个环节。然而对于脱离了语言环境的外语学习者来讲,“听、说”就成了前进路上的最凶恶的拦路虎,特别是对于非外语专业学习者、自学者、进修者来讲更是如此。

而《新日语基础教程 1、2》很好地解决了这个问题。本教材能够成为全球最畅销的日语教材(据《朝日新闻》),并占据日本市场的60%的份额,没有任何侥幸的成分,是海外技术者研修协会(AOTS)经过近四十年的不断探索、完善、修订,历经三个版本的艰辛历程,方完成了现在这套《新日语基础教程 1、2》。

为使学习者在有限的时间内(共200小时)达到掌握基本听说能力,能够听得懂、说得出,本教材的编排可谓独辟蹊径,学习方法也与众不同,强调教材和录音带的配套使用。

学习者在使用本教材前一定要仔细阅读每册书前的「改訂にあたって」「改訂说明」、「凡例」「凡例」、「学習者のみなさんへ」「致学员们的要求」等,学习时认真按照要求去做,您的日语水平,一定能够达到一个崭新的水平。

编 者

1998.8.8

序

財団法人海外技術者研修協会は、1959年に設立されて以来、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの発展途上諸国の技術研修生の受入れ及び研修に関する事業を行ってきた。1989年3月末現在、受入れ研修生数は延べ約4万人、受入れ対象国は150ヶ国に及んでいる。

研修生が、日本で生活し企業で研修を受ける際、研修生にとって最大の悩みは言葉である。日本語が分からなければ、日本になじめないし、日本を知ることも難しく、工場実習の成果を十分には期待できない。研修の成果と日本語習得の度合いとは、多くの場合、比例関係にあるということが私たち協会の経験的結論である。この意味で、協会は創立以来、在日期間の比較的短い技術研修生に対しての日本語教育を重視してきた。

協会の日本語教育は、企業の実地研修に先立って行われる一般研修の一環として行われている。現在、日本語を主要科目とする一般研修には、6週間コース（日本語100時間）と13週間コース（日本語200時間）とがある。中心は、6週間コースで、時間にして100時間弱である。言葉の教育として異例に短いが、これは、研修生の滞在期間が限られていて、且つ、来日の目的が技術習得であることに鑑み、できるだけ多くの時間を実地研修に充当しなければならないからである。このため、私たちは、最も効率的な、短時間に具体的成果のあがる方法を、常に工夫してきた。これが私たち協会で教える日本語である。

そこで、1961年協会独自の教科書『Practical Japanese Conversation』が作られ、1964年改訂版、1965年再訂版が作成された。この二度にわたる改訂によるも、なお、「覚えやすい」「すぐに役立つ」「一定の品位を保つ」協会の日本語の教科書としては、十分に満足できるまでに至らなかった。

そのため、1967年には、新たな構想のもとに『実用日本語会話』（Practical Japanese Conversation）を作成した。そして2年後にはその各国語版（5ヶ国語）も完成した。しかしながら、実際に用いてみると、この『実用日本語会話』は100時間短期集中教育の教科書としては盛り沢山であることが分かった。したがって、更に研究と検討を重ねて編纂されたものが、『日本語の基礎』（後の『日本語の基礎Ⅰ』）である。その後、日本語学習歴のある研修生の増加及び一般研修13週間コースの常設化に対応して、『日本語の基礎Ⅱ』を1981年に刊行した。

『日本語の基礎Ⅰ』は、よく長年の風雪に耐えてきた。今後も長く耐え続けるかも知れないと思われた。しかし、何分にも、刊行後すでに10年以上の歳月を経ている。また、この間研修生の大幅な増加と、研修生の国や日本語学習歴の多様化が一層進んでいた。そこで新たな時代の要求に応えるため、またⅠとⅡとを統一的に見直す必要から、1985年に改訂に着手し、検討と試用を積み重ねて、この度『新日本語の基礎Ⅰ』の完成を見るに至った。

この教科書は、研修協会が対象とする技術研修生の100時間コース用として編纂されたものではあるが、教科書の説明を読み、その指示に従うならば、一般の短期学習者、あるいは入門期の日本語教育にも十分活用できるものと確信している。

この改訂にあたっては、各方面からの御助言を得た。深く感謝申し上げると共に、本書の活用と協会の日本語教育の充実のため、更に一層の御支援をお願いする次第である。

1989年11月

財団法人 海外技術者研修協会
専務理事 山本長昭

改訂にあたって

『日本語の基礎Ⅰ』と『日本語の基礎Ⅱ』はその作成時期において、10年近くの開きがある。そのためⅠからⅡを通してみると、内容的に統一を欠く面が残った。このような内容の是正と共に、これまでの教授法の反省を踏まえて、1985年より、『日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』の全面的改訂に踏み切った。改訂にあたり、留意した点は以下の通りである。

1. まず、基本的で使用頻度の高い日本語の文型、語彙、表現などを再検討し、内容の刷新を図った。更に、文型、例文、会話、練習など、教科書全体の構成を立て直した。
2. 『日本語の基礎』の文型練習の積み上げによる文型、語彙の定着の良さという長所を生かしながらも、会話の実際のな運用力が向上するように「練習C」を加えた。
3. 研修生及び、技術研修先の会社や工場の方々の協力を仰いで、研修生が来日してから帰国するまでの言語活動を調査した。この中から、研修生が日本語を使用する場面、状況などを選び、「会話」に反映させた。「会話」は簡潔な表現で、しかも実用性が高く、自然な日本語であることに留意した。
4. 数課ごとの復習、文法事項のまとめ、関連語彙などを加え、学習者、教授者にも教科書として使いやすくなるように配慮した。
5. 日本語学習の初期段階における聞き取り力の養成を重視し、「問題」に聞き取りの内容を多く取り入れた。また、読解力を養う導入として、短い内容の読み物を配した。

『新日本語の基礎Ⅰ』は、上記の意図に基づく初級レベルの日本語教科書である。学習時間は約100時間である。2年間の試用期間を置き、検討、補正を重ね、発刊に至った。しかし、まだなお不十分な点があると思われる。多くの方々の御批判、御助言をいただき、より一層の充実を目指したい。

凡 例

I. 教科書の構成

この教科書は本冊、分冊、及びカセットテープより成る。本冊はローマ字版と漢字かなまじり版の2種類がある。分冊は英語、インドネシア語、タイ語、スペイン語、韓国語、中国語がある。他の言語についても、順次完成させていく予定である。

この教科書は日本語を聞く、話すということを中心に構成されている。従って、ひらがな、かたかな、漢字などの文字の読み書きの指導は含んでいない。

II. 教科書の内容及び使い方

1. 本冊

1) 日本語の発音

日本語の発音上注意すべき点について、主な例を提出してある。この上になお、学習者の個々の母国語の背景を考慮した練習をすることが望ましい。

2) 教室の言葉、挨拶、数字

教師の指示、日常の基本的挨拶などで、本課に入ってからよく使われるものなので、しっかり練習しておく。

3) 本課

1課から25課まであり、内容は以下のように分けられる。

① 文型

その課で学ぶ基本文型を提出順序に従って掲げてある。

② 例文

基本文型を質問及び答えという対話の形式で表してある。文型が実際にどのような形で用いられているかを談話の最小単位の形で示したものである。また、その課で扱われた副詞や接続詞などの使い方をできるだけ取り上げた。基本文型に示された以外のその課で学ぶ学習項目も入っている。

③ 会話

会話の登場人物はセンターで6週間の一般研修を受ける研修生達を中心として、コース開始から研修先へ赴くまでの話しをまとめてある。各課の学習内容を密着させた形で日常生活によく使用される挨拶などの慣用的表現を加えて作成した。平易な会話であるから、全文暗記することが望ましい。余裕があれば、分冊の関連語彙表や視聴覚教材などを利用して、この会話を発展させ、会話力の向上に役立たせてほしい。

④ 練習

練習はA, B, Cの三段階に分かれる。練習Aは文法的な構造を理解しやすいように、視覚的效果を考えてレイアウトしてある。基本的な文型を語彙の代入という形で定着を図ると共に、活用形の作り方、後続句への品詞別の接続の仕方などを学びやすく配慮してある。

練習Bは様々なドリル形式を用いて、基本文型の定着の強化を図るものである。

の印のついた番号は絵チャートを用いる練習を示す。

練習Cは練習A, Bの基礎的な文型練習が円滑に出来るようになった段階で行う

短い会話練習ドリルである。文型が実際にどのような場面、状況の中で、その機能を果たすかを学ばせ、発話力を高めるために設けた。教科書のまま読み上げたり、単にリピートするだけではなく、クラスのレベルや状況に合わせて、モデル文の代入肢を変えたり、さらに練習の展開を図るような工夫が望まれる。

⑤ 問題

問題には、聞き取り（ マークの箇所）と文法問題とがある。聞き取りはカセットテープを聞いて、短い質問に答える問題と、短い会話のやりとりを聞いて内容の要点を把握する問題とがある。これらの問題は聞き取りの力の強化を図るために設けた。文法問題は、語彙やその課で学んだ文法事項の理解度を確認するものである。読解問題は既習語彙、文型を使って書き下した平易な文を読んで、その内容に関する質問に答えるものが多い。

⑥ 復習

数課ごとに学習事項の要点を再整理するために設けた。

⑦ まとめ

本冊の終わりに、この教科書に提出された助詞や動詞のいろいろなフォームの使い方、副詞や接続詞などの文法事項を項目ごとにまとめ、例文を掲げた。

⑧ 索引

本冊の教室の言葉、挨拶、数字をはじめ、各課の新出語彙、表現などが載せてある。

2. 分冊

分冊はPART I からPARTIVまでの4つの内容に分かれる。

① PART I 語彙及び訳

各課の新出語彙とその各国語訳が載せてある。これらは絵教材化されて市販されている。

② PART II 関連語彙及び訳

必須語彙ではないが、役に立つと思われる語彙を中心に、13項目に分けてまとめた。

③ PART III 翻訳

本冊中の発音編、教室の言葉、挨拶、文型、例文、会話及びまとめの部分の各国語訳である。

④ PART IV 付表

数字、時の表現、期間の表し方、助数詞など、この教科書で提出されている語彙面の学習内容を整理し、更に多少項目を追加した。

3. 表記上の注意

1) 漢字は原則として、「常用漢字表」による。

- ① 「熟字訓（2文字以上の漢字を組み合わせ、特別な読み方をするもの）」のうち、「常用漢字表」の「付録」に示されるものは漢字で書いた。

例 友達 ともだち 果物 くだもの 眼鏡 めがね

- ② 国名・地名などの固有名詞、又は芸能・文化などの専門分野の語には、「常用漢字

表」にない漢字や音訓を用いた。

例 大阪 ^{おおさか} 奈良 ^{なら} 歌舞伎 ^{かぶき}

- 2) 「常用漢字表」及び「付表」に示される範囲で漢字を用い、振り仮名を付けたが、学習者の読みやすさを配慮して、一部仮名書きにした。

例 ある(有る・在る) たぶん(多分)

きのう(昨日) こんにちは(今日は)

- 3) 数字は原則として算用数字を用いた。

例 9時 ^{くじ} 4月1日 ^{しがついつにち} 1つ ^{ひとつ}

ただし、次のような場合は漢数字を用いた。

例 一人 ^{ひとり}で 一度 ^{いちど} 一万円札 ^{いちまんえんさつ}

4. その他

- 1) 文中省略できる語句は【 】でくくった。

例 はい、【わたしは】ラオです。

- 2) 1つのものに違った表現がある場合はそれを()でくくって示した。

例 お手洗い ^{てあら}(トイレ)

- 3) 別の語句と置き換えができる部分は【 】でくくって示した。

例 【コーヒー】は いかがですか。

学習者のみなさんへ

1. 言葉をよく覚え、文型を繰り返し練習しましょう。

この教科書の分冊には各課ごとに新しい言葉が提出されています。まず、その言葉をよく覚えましょう。その上で、文型の正しい意味を捕らえ、文の形がしっかり身につくまで繰り返し練習してください。特に「練習A, B」は実際に声を出して練習しましょう。

2. 会話の練習を十分にしましょう。

文型練習の次は会話練習です。「会話」には日常生活で遭遇するさまざまな場面を取り上げました。こうした会話に慣れるために、まず「練習C」でよく練習しましょう。それから「会話」で場面や状況にふさわしいやり取りのコツを覚えましょう。

3. テープを何度も聞きましょう。

文型練習や会話練習の際は、正しい発音や抑揚などを身につけるために、テープを聞きながら、実際に声を出して練習しましょう。また、日本語の音やスピードに慣れ、内容を聞き取る力を養うためにも、テープを何度も聞きましょう。

4. 必ず復習をしましょう。

授業で習ったことを忘れないためにも、必ずその日のうちに復習をしましょう。最後に「問題」で学んだことを確認し、聞き取りの力試しをしましょう。

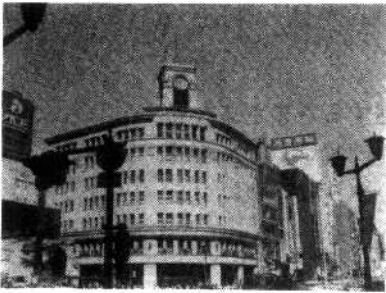
5. 実際に話してみましょう。

教室の中だけが学習の場ではありません。学んだ日本語を使って友達や一般の日本人に話しかけてみましょう。学んだものが役立てば、学習の励みにもなるでしょう。

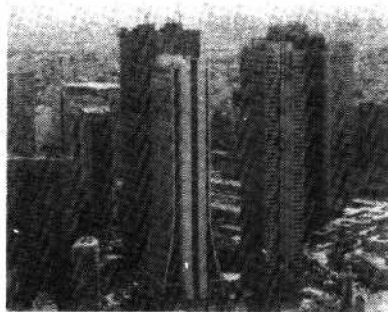
以上のことを守って、この教科書の勉強を終えると、日常生活に必要な基本的な語彙と日本語の基本的な表現が身につきます。焦らず根気よく勉強を続けてください。

日本の地図

TKC (東京研修センター)

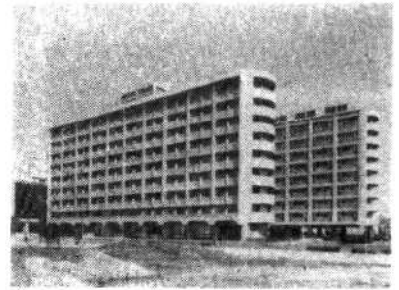


銀座



新宿

YKC (横浜研修センター)



横浜

北海道
北海道

東京

本州

京都

神戸

広島

九州

四国

富士山

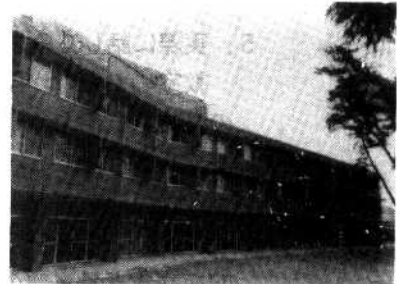


名古屋

奈良

大阪

CKC (中部研修センター)



KKC (関西研修センター)



沖縄



大阪城

この テキストの 主な 登場人物

■センターで 日本語を 勉強して いる 研修生



ラオ



ナロン



アリ



リー

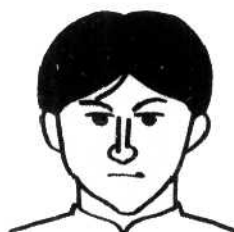
■センターに 住んで 会社で 実習して いる 研修生



ハン



キム



マリオ

■センターで 働いて いる 日本人



田中
コース担当者



木村
受付の人



鈴木
日本語の先生

■その他の 人々



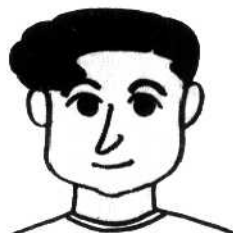
加藤



佐藤



林



山本

目次

	ページ
I. 日本語の発音	1
II. 教室のことば	3
III. 挨拶	3
IV. 数字	3
第1課	4
1. わたしは ラオです。	
2. ナロンさんは 日本人では ありません。	
3. アリさんは 研修生ですか。	
4. リーさんも 研修生です。	
会話：紹介	
第2課	12
1. これは 本です。	
2. それは わたしの 本です。	
3. この 本は わたしのです。	
会話：受付で	
第3課	20
1. ここは 教室です。	
2. 事務所は あそこです。	
会話：デパートで	
第4課	28
1. 今 1時10分です。	
2. わたしは 朝 6時に 起きます。	
3. わたしは 9時から 5時まで 働きます。	
4. わたしは きのう 勉強しました。	
会話：スケジュール	
第5課	36
1. わたしは 京都へ 行きます。	
2. わたしは 飛行機で 国へ 帰ります。	
3. わたしは 友達と 日本へ 来ました。	
会話：電車で 乗る	

第 6 課 44

1. わたしは コーヒーを の 飲みます。
2. わたしは デパートで シャツを 買います。
3. いっしょに ごはんを 食べませんか。
4. ロビーで 休みましょう。

会話：映画に 行く

復習 A 52

第 7 課 54

1. わたしは はしで ごはんを 食べます。
2. わたしは リーさんに 時計を あげます。
3. わたしは 田中さんに 辞書を もらいました。

会話：プレゼント

第 8 課 62

1. ラオさんは 親切です。
2. 東京は 大きいです。
3. ラオさんは 親切な 人です。
4. 東京は 大きい 町です。

会話：センター訪問

第 9 課 70

1. わたしは りんごが 好きです。
2. わたしは カメラが あります。
3. わたしは おなかが 痛いからです、病院へ 行きます。

会話：病気

第 10 課 78

1. 事務所に 田中さんが います。
2. ロビーに テレビが あります。
3. ラオさんは 部屋に います。
4. 本は 机の 上に あります。

会話：道を 聞く

第 11 課 86

1. リンゴを 3つ 買います。
2. コンピューターが 2台 あります。
3. ラオさんは 日本に 1年 います。

会話：郵便局で

第 12 課 94

- 1.きのうは 雨でした。
- 2.きのうは 寒かったです。
3. 東京は 大阪より 大きいです。
4. クラスで ナロンさんが いちばん 若いです。

会話：旅行

第 13 課 102

1. わたしは カメラが 欲しいです。
2. わたしは 映画を 見たいです。
3. わたしは デパートへ 靴を 買いに 行きます。

会話：外出

復習 B 110

第 14 課 112

1. 辞書を 貸して ください。
2. リーさんは 今 テレビを 見て います。

会話：カメラ屋で

第 15 課 120

1. たばこを 吸っても いいです。
2. ラオさんは いい カメラを 持って います。

会話：家族

第 16 課 128

1. 朝 起きて、ごはんを 食べて、会社へ 行きます。
2. 仕事が終わってから、すぐ うちへ 帰ります。
3. 東京は 人が 多くて、にぎやかです。

会話：レストランへ 行く

第 17 課	136
1. 写真を 撮らないで ください。	
2. 毎日 勉強しなければ なりません。	
3. 土曜日の 午後 勉強しなくても いいです。	
会話：工場 見学	

第 18 課	144
1. リーさんは 漢字を 読む ことが できます。	
2. わたしの 趣味は 映画を 見る ことです。	
3. 寝る まえに、本を 読みます。	
会話：スキー	

第 19 課	152
1. 日本料理を 食べた ことが あります。	
2. 日曜日 買い物したり、映画を 見たり します。	
3. これから だんだん 寒く なります。	
会話：訪問	

復習 C	160
------	-----

第 20 課	162
1. あした 東京へ 行く。	
2. 毎日 忙しい。	
3. きょうは いい 天気だ。	
会話：パーティー	

第 21 課	170
1. 今晚 雨が 降ると 思います。	
2. 会社の 人は あした センターへ 来ると 言いました。	
会話：会議	

第 22 課	178
1. これは わたしが 撮った 写真です。	
2. あそこに いる 人は リーさんです。	
会話：仕事の あとで	

復習 D	186
------	-----